

Meiji Institute of Philosophies (MIPs)

研究集会：ライナー・シュールマンの哲学 — ハイデガーとアナキーの原理を中心に

2024年4月2日（火）

14:00-18:00 明治大学和泉キャンパス

場所：リエゾン棟 L1 教室

無料・参加自由

主催：Meiji Institute of Philosophies (MIPs) 明治大学文学部心理社会学科哲学専攻

14:00-14:10 趣旨説明 池田喬（明治大学）

14:10-14:50 講演 1 宮崎裕助氏（専修大学）「ライナー・シュールマンを導入する——その思想の全体像」

14:50-15:10 質疑応答

15:10-15:50 講演 2 中西淳貴氏（東京大学）「蜂起の時節 — アナキストに読まれるハイデガー」

15:50-16:10 質疑応答

16:10-16:20 休憩

16:20-16:50 講演 3 合田正人（明治大学）「アナルシーからアナルシー — 襞と水面：レヴィナスとシュールマン」

16:50-17:10 質疑応答

17:15-18:00 全体討議

趣意文 |

シュールマンの本『『アナキーの原理 — ハイデガーと行為の問題』』には特別に注目する必要がある。この本は尋常ではない慎重さで書かれており、ボーフレが向けたあの問いに対するハイデガーの拒絶を真剣に受け取る点で、完全にハイデガーに忠実である。ハイデガーが『ヒューマニズムについて』で答えたあの問いである。その問いとは「いつあなたは倫理学を書くのですか」という問いである。（H-G. ガダマー）[注 1]

ガダマーがこのような格段の重要性を認めている、R. シュールマン（Reiner Schürmann, 1941-1993）の『『アナキーの原理 — ハイデガーと行為の問題』』（1982年）は、ハイデガーのアナキズム的解釈の記念碑的著作であり、今日でも影響力を誇っている。

ドイツに生まれたドミニコ会の神父であり、フランス語で書き、ニューヨークで教えたシュールマンはハイデガーに深刻な影響を受け、ガダマーの言葉で言えば「尋常でない慎重さで」ハイデガーを研究した。M. エックハルトを研究していた 24 歳の時にすでに、ハイデ

ガーに手紙を送り、面会を許され、Es gibt Sein の es について討論してもいる。日本語では、S. クリッチリー&R. シュールマン『ハイデガー『存在と時間』を読む』（串田純一訳、法政大学出版局）でその明晰な解釈を読むことができる。

他方、シュールマンは、ニューヨーク・ニュー・スクール・フォー・リサーチにおける H. アレントと H. ヨナスの同僚であり、G. アガンベンや A. ネグりに注目された政治哲学者である。例えばネグりは、「ライナー・シュールマンを読まなければなりません。〔…〕彼は特異な本を一冊書いているのですが、そのなかで、西欧の形而上学の歴史には優生思想が倒錯的なかたちで持続していることを証明しようとしています」と述べている。[注 2]

シュールマンの思想は各方面からこれほどまでに重要視されてきたにもかかわらず、日本ではほとんど知られていない。この研究集会では、その思想をハイデガーとアナーキーの原理を中心に検討する。まず、シュールマンの思想にかねてから注目していた宮崎裕助氏（専修大学）にその思想の全体像を紹介していただく。次に、『アナーキーの原理』を翻訳中の中西淳貴氏（東京大学）に、シュールマンにおけるハイデガーのアナーキズム的解釈について報告していただく。最後に、ユダヤ思想史の観点を踏まえて合田正人氏からレヴィナスとシュールマンの関係についてお話しいただく。最後に全体討議の時間を設け、シュールマンの哲学の魅力や可能性について話し合いたい。

注

[1] H-G. Gadamer, Gibt es auf Erden ein Maß?, *Philosophische Rundschau* Vol. 32, No. 1/2, 1985, S. 18.

[2] ネグリ、A. 「『帝国』とは何か」（杉村昌昭訳）、『現代思想』 Vol. 31 (2), 2003, p. 41.